

フ ァ イ ル 12

大 谷 句 佛

大 野 林 火

大橋 桜坡子

大 橋 敦 子

大 橋 松 平

大 町 桂 月

大 村 主 計

大 村 能 章

大 宅 壮 一

大和田 建樹

岡 千 里

岡 麓

岡 倉 天 心

岡崎 清一郎

大谷句佛句碑

所在地 北海道函館市元町六十五 東本願寺 函館別院境内

祖恩しのぶ

北門秋の

法城に

大正己未之秋九月別院
再建成就を祝し宗祖の
遺恩を修す 句佛

碑陰

函館別院堂宇再築落成記念之碑

(略)

大正八年六月二日

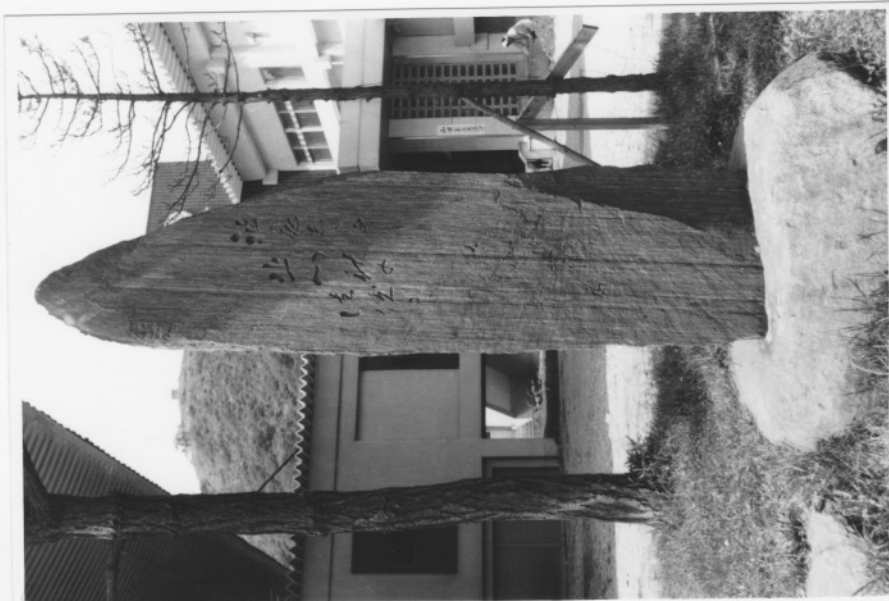
文学博士真宗講師南條文雄撰併書

(梓外) 皇紀二千六百年記念

寄付及能仁三郎

略歴

大谷句佛 本名 光演 明治八年二月二十七日 京都市東六条に生まれる 東
本願寺第二十三世管長 東京で勉学に励む 昭和九年二月六日歿す 享
年六十七歳 法名 無量徳院釋彰如 墓は京都市東山区東大谷廟所内に
ある



大谷句佛句碑

所在地 北海道函館市元町 16・15 東本願寺 函館別院境内

祖 恩 し の ふ

大正己未之秋九月別院

北 門 秋 の

再建成就を祝し宗祖の

法 城 に

遠忌を修す

句 佛

碑陰

函館別院堂宇再築落成記念之碑

(略)

大正八年六月二日

文学博士真宗講師南條文雄撰併書

(梓外) 皇紀二千六百年記念

寄付及能仁三郎

略歴

大谷句佛 本名 光演 明治 8 年 2 月 27 日 京都市東六条に生れる 東本願寺
第 23 世管長 東京で勉学に励む 昭和 18 年 2 月 6 日歿す 享年 67 歳 法名
無量徳院釋彰如 墓は京都府京都市東山区 東大谷廟所内にある



大谷

新井 敬造

恩 掛

門 井

造

碑文念頭

大正八年六月二日



大谷句佛句碑

所在地 新潟県上越市西笠巻二丁目 長福寺境内

句佛

碑陰

白木蓮の梢雲なし

あたゝかき

先師大谷句佛上人の
十七回忌に当りて

昭和廿四年六月

末弟子鳴澤獨来

建之

協賛 小林太吉

田辺寿太

田部 豊

所在地 新潟県上越市五智三丁目 国分寺境内

句佛

碑陰

御配所

我れ

なく夜半

を

郭公

文字読めず(略)

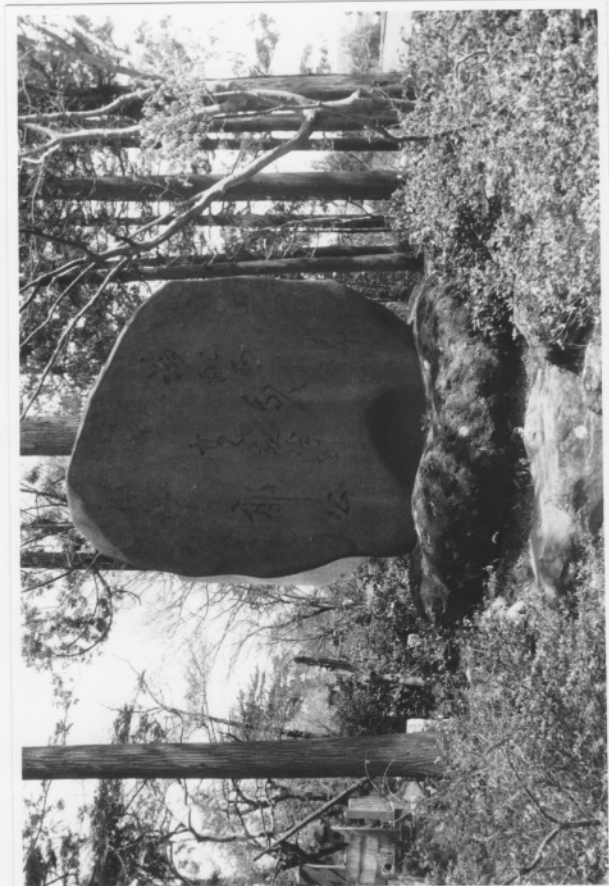
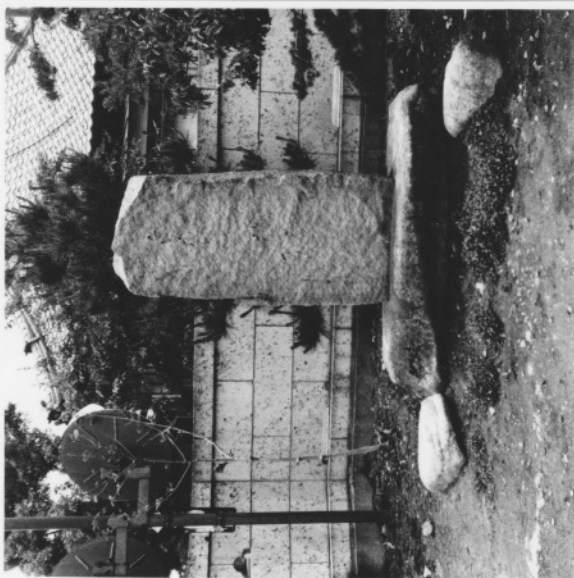
明

為見真大師流謫七百年

紀念

明治四十年建之

下



大谷句佛句碑

所在地 新潟県新潟市白根西笠巻 1149 長福寺境内

句佛 碑陰

梢雲なし

先師大谷句佛上人の

白木蓮の

十七回忌に当りて

あたゝかき

昭和廿四年六月

末弟子鳴澤獨来

建之

協賛 小林太吉

田辺寿太

田部昇五郎

所在地 新潟県上越市五智 3-20-21 国分寺境内

句佛

御配所

碑陰

我れ

文字読めず(略)

なく夜半

為見真大師流謫七百年

を

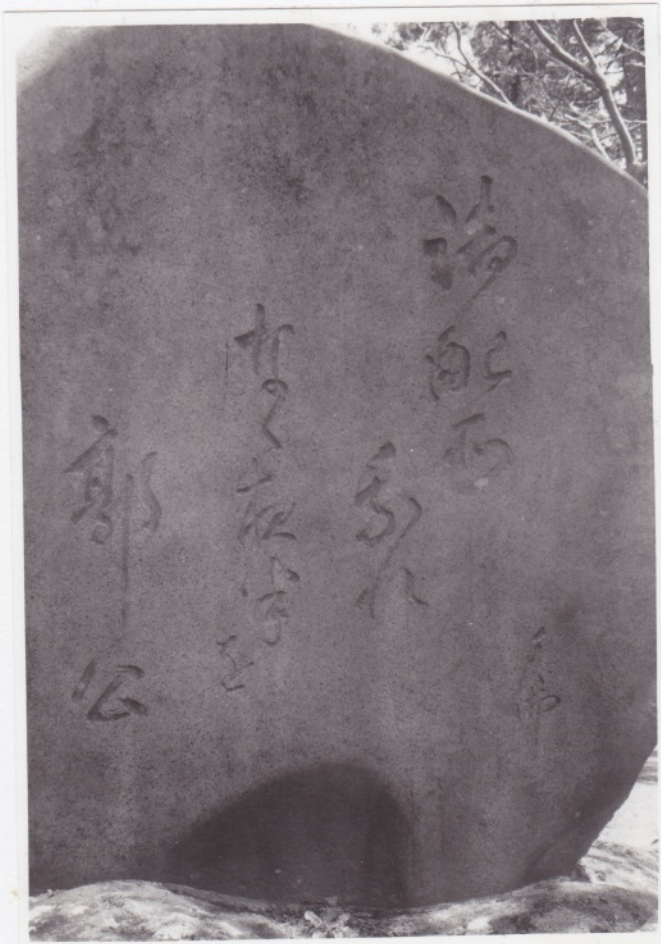
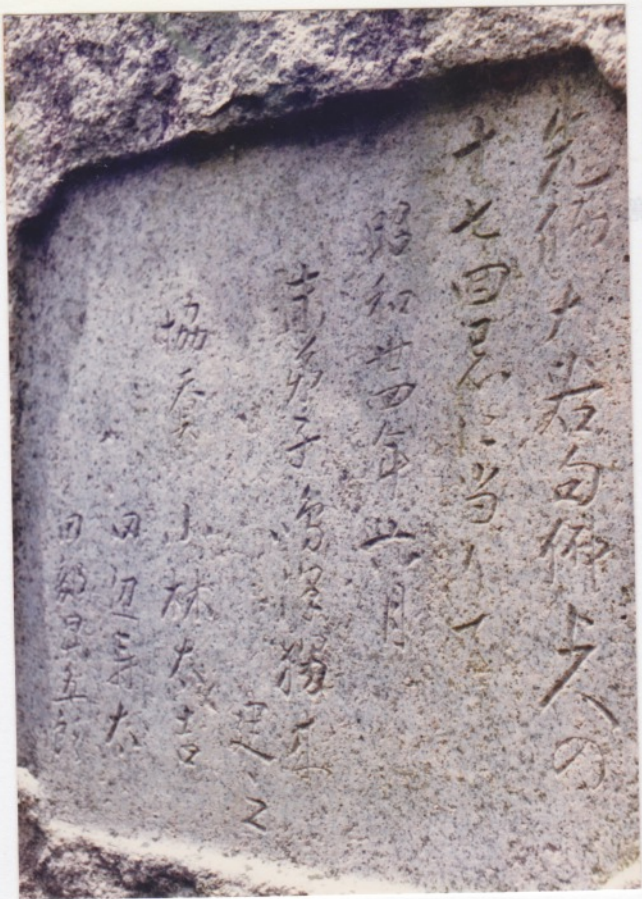
記念

郭 公

明治四十年建之

賛 不

助 明



大谷句佛句碑

所在地 新潟県西蒲原郡分水町大川津 分水公園内

信濃川の分水路を見て

句佛

業や心の

雨に勝る

花 盛

碑陰

昭和三年春建之

発起者 中蒲原郡臼井村 田澤 實入

建立者 同 郡同 村 長井 瀬平

西蒲原郡味方村 笠原 傳作

同 郡地蔵堂町 山宮半 四郎

賛助員 六名列記(略)



大谷句佛句碑

所在地 新潟県燕市分水町大川津 分水公園内

信濃川の分水路を見て

句 佛

業 や 心 の

禹 に 勝 る

花 盛

碑陰

昭和三年春建之

発起者 中蒲原郡臼井村 田澤 實入

建立者 同 郡同 村 長井 瀬平

西蒲原郡味方村 笠原 傳作

同郡地藏堂町 山宮半四郎

賛助員 六名列記 (略)

大谷町町史

内閣公文 大谷町公文 市議決案 市議決案 市議決案

町史



大谷句佛句碑

所在地 富山県下新川郡入善町入膳五三番 養照寺 救世観音横

護國の 句佛

碑陰

榮 譽 無 上 魂 に

文字なし

風 薫 る

所在地 石川県輪島市 柚ヶ浜海岸

念佛の

碑陰

味をも

昭和二十九年七月

能 登 の

輪島市有志一同

干 鮑

句佛



大谷句佛句碑

所在地 富山県下新川郡入善町入膳 5223 甲 養照寺 救世観音横

句 佛

護 國 の

魂 に

栄 誉 無 上

風 薫 る

碑陰

文字なし

所在地 石川県輪島市 袖ヶ浜海岸

念 佛 の

味 を も

碑陰

能 登 の

昭和三十九年七月

干 鮑

輪島市有志一同

句 佛



太谷句佛句碑

所在地 石川県松任市中町五十六 聖興寺境内

朝 兎 の 句 佛

種 も こ ぼ れ よ

初 時 雨

碑 陰

寄 進 喜 多 一 雄
竹 田 顕 義

昭和己丑春建之
(注)昭五〇二王翠

所在地 愛知県岩倉市大地新二 正起寺境内

落 葉 踏 ん で 句 佛

笹 子 樹 ふ か く

消 ぬ る か な

碑 陰

昭和廿七壬辰春日建之



大谷句佛句碑

所在地 石川県白山市中町 56 聖興寺境内

朝 兒 の 句 佛

種 も こ ぼ れ よ

初 時 雨

碑陰

寄進 喜多一雄

竹田顕義

昭和己丑春建之

(註)昭和己丑=24 年

所在地 愛知県岩倉市大地新町 2-65 正起寺境内

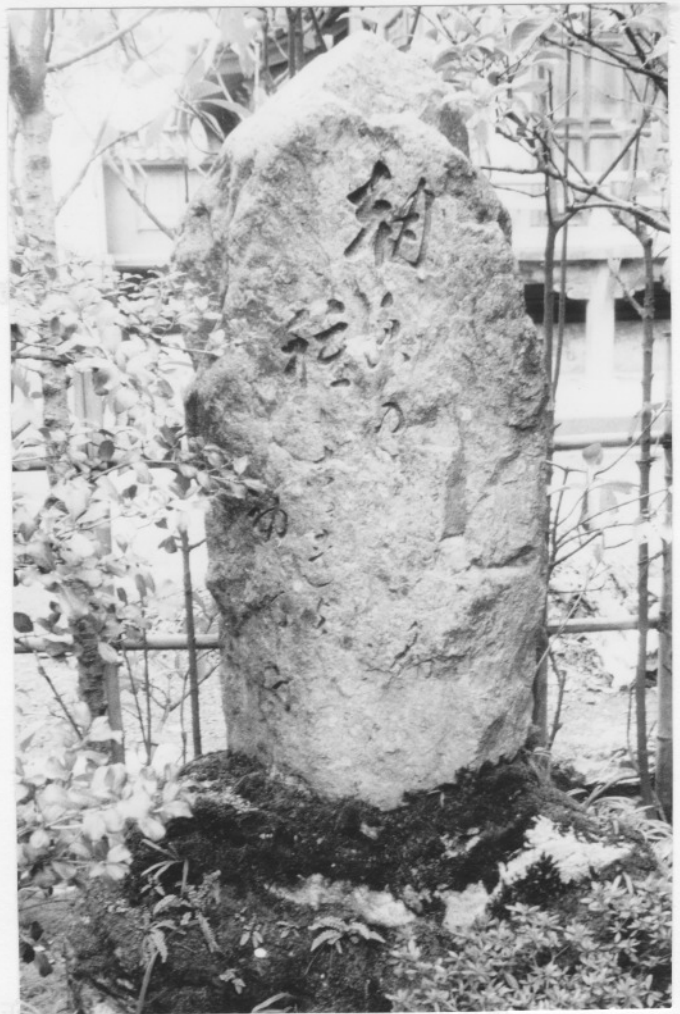
落 葉 踏 ん で 句 佛

笹 子 樹 ふ か く

消 ぬ る か な

碑陰

昭和廿七壬辰春日建之



大谷句佛句碑

所在地 愛知県西尾市中町壱 聖運寺境内

句佛

春風や佛を刻む

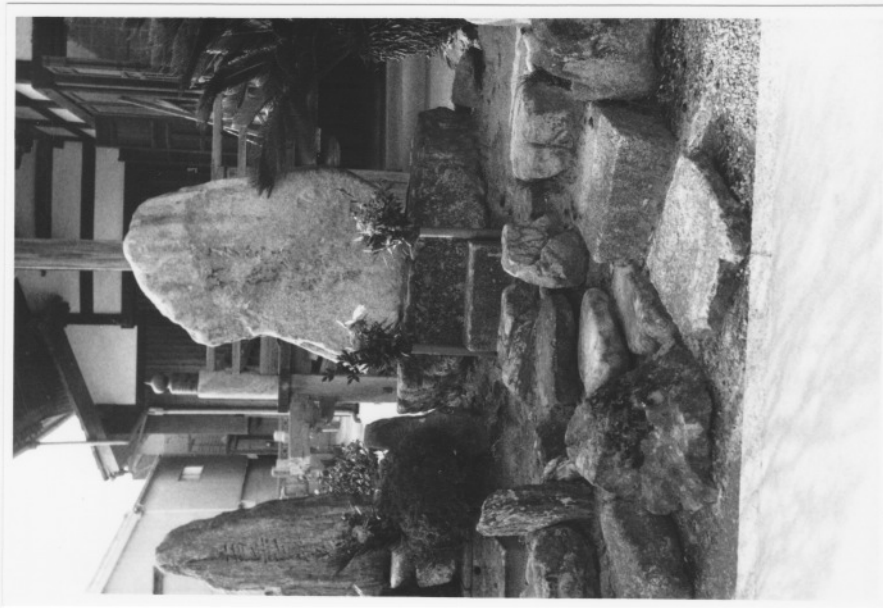
かなな屑

碑陰

維田中長嶺君碑也君越後三島郡才津村田中小四郎之六男嘉永二年四月廿一日生少壮出于江戸修學習画明治維新欲以殖産報
国

(以下省略)

大正十二年四月 従五位勲五等 佐藤



大谷句佛句碑

所在地 愛知県西尾市中町 54 聖運寺境内

句 佛

春 風 や 佛 を 刻 む

か ん な 屑

碑陰

維田中長嶺君碑也君越後三島郡才津村田中小四郎之六男嘉永
二年四月廿一日生少壮出于江戸修学習画明治維新欲以殖産報
國

(以下省略)

大正十二年四月 從五位勲五等 佐藤 (以下不明)

大谷句佛句碑

所在地 愛知県豊橋市花園町 豊橋別院境内

空正の松焼枯して久し今其遺蹟を
継がんとて手植を乞はれければ

緑 せ よ 句 佛

松 籟 鐘 に

碑 陰

別院創立三百年法要記念

昭和十五年四月建立

和 する まて

所在地 滋賀県大津市本堅田町長等三三 本福寺境内

千 那 之 墓

句 佛

落花に魂の

碑 陰

山茶花の

大正甲子春

作建之

埋もれなん

(注) 西暦一九二二年



大谷句佛句碑

所在地 愛知県豊橋市花園町8 豊橋別院境内

空正の松焼枯して久し今其遺蹟を
継がんとて手植を乞はれければ

緑 せ よ 句 佛
松 籟 鐘 に
和 す る
ま て

碑陰

別院創立三百年法要記念
昭和十五年四月建立

所在地 滋賀県大津市本堅田町長等3-3 本福寺境内

千 那 之 墓

句 佛

碑陰

落 花 に 魂 の

大正甲子春

山 茶 花 の

□作建之

埋 も れ な ん

(注)大正甲子=13年



周囲に柵があるため近寄れず、その故大分しきり

昭和五十四年四月五日撮影
昭和五十四年四月五日撮影



大谷句佛句碑

所在地 三重県桑名市明正通一丁目(旧益王町) 有王塚

わかにゆく 句佛
あとなを
塚になけ
友 千 鳥

碑陰

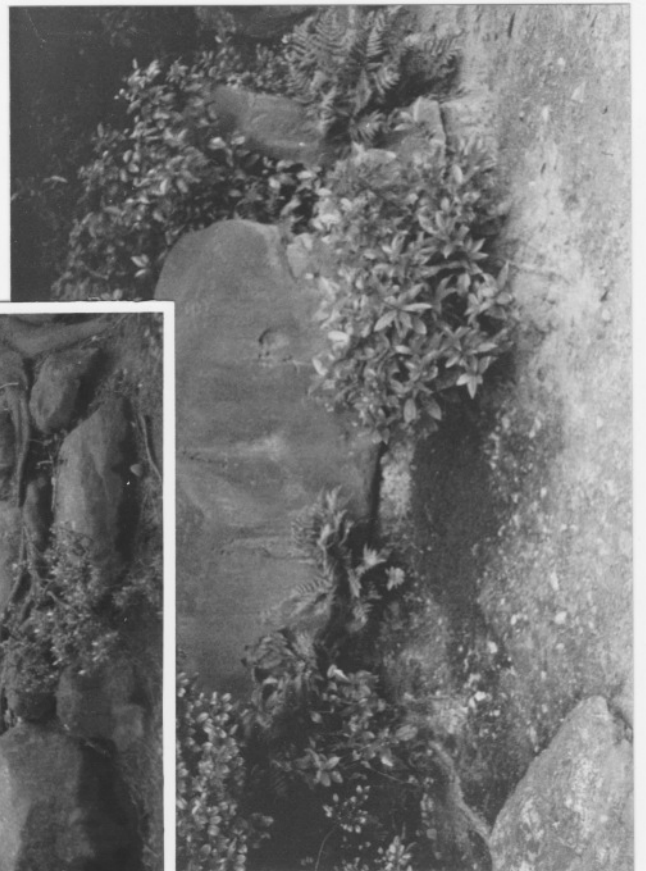
有王者俊寛侍者也
少尋師絶島畢生収
骨行脚没桑名里人
冢之此是也
奎祐聖王頁三言

所在地 京都府京都市下京区正面通間の町 枳殻邸 涉成園内

九十年 句佛
勿體
なや
祖師は
かみこ
の

碑陰

木が茂っていて
見ること不可能



大谷句佛句碑

所在地 三重県桑名市明正通 1 丁目(旧益王町) 有王塚

句 佛

わか泣く

碑陰

あとを

有王者俊寛侍者也

塚になけ

少尋師絶島畢生収

友千鳥

骨行脚没桑名里人

冢之此是也

大正十卯年十二月十二日

所在地 京都府京都市下京区下数珠屋町間之町東入ル 枳殻邸 涉成園内

句 佛

九十

年

碑陰

勿體

木が茂っていて

なや

読むこと不可能

祖師は

かみこ

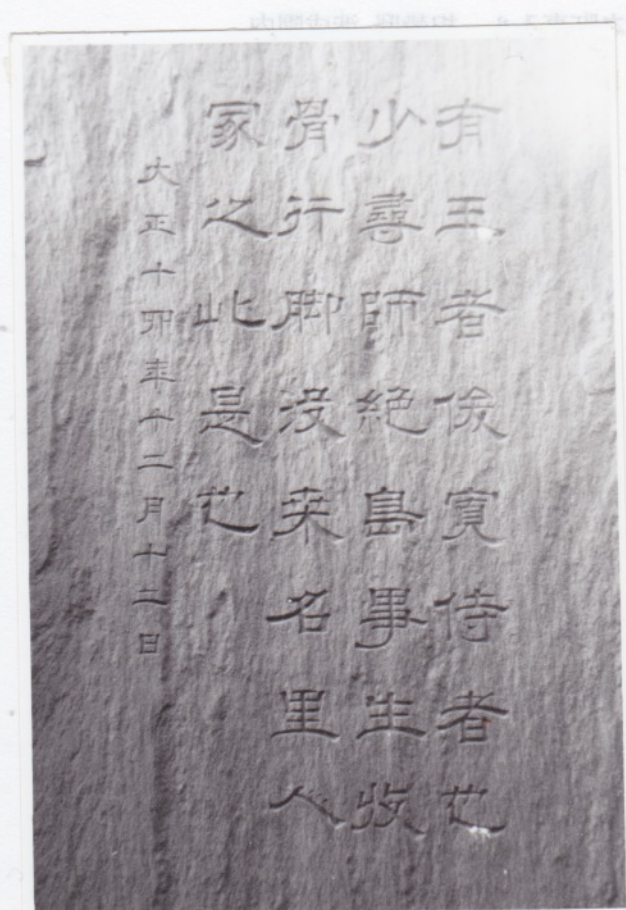
の



人里赤桑路開行骨

由景出立家

日二十月二十年甲辰十五大





松穀邸



枳穀卯

←



涉成園

←



涉成園

←

大谷句佛句碑

所在地 京都府京都市東山区円山四毛 東大谷祖廟前庭

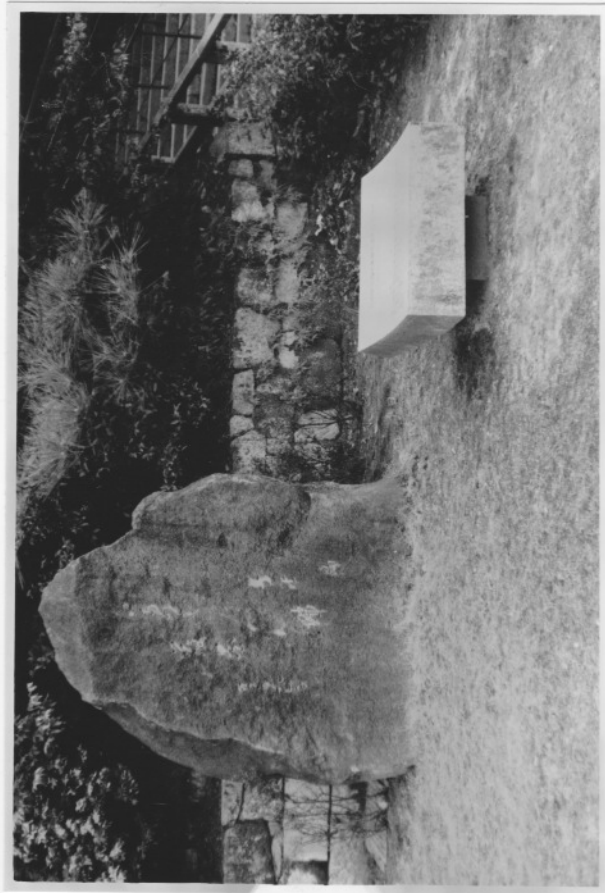
日あいて
落花
なかむる
子 は 句佛
佛

碑陰
文字なし

副碑

彰如上人二十五回忌法要記念句碑
昭和四十二年三月三十日建立

2 3 名 列 記 略



大谷句佛句碑

所在地 京都府京都市東山区円山 477 東大谷祖廟前庭

句佛

子は

口あいて

佛

落花

なかむる

碑陰

文字なし

副碑(横書き)

彰如上人二十五回忌法要記念句碑

昭和四十二年三月三十日建立

23 名列記(略)



大谷句佛句碑

所在地 大阪府大阪市北区東天満二丁目 東本願寺 天満別院境内

祖師は 句 佛

紙衣の

勿体なや

九 十 年

碑 陰

宗祖六百五十季忌豫修記念碑陰記

省 略 (途中下の方は痛み激しく読むことが不可能)

明治四十有三季歳次庚戌四月真宗大谷派 (あと不明)



大谷句佛句碑

所在地 大阪府大阪市北区東天満 1-8 東本願寺 天満別院境内

句 佛

祖 師 は

紙 衣 の

勿 躰 な や

九 十 年

碑陰

宗師六百五十季忌豫修記念碑陰記

省 略 (途中下の方は痛み激しく読むこと不可能)

明治四十有三季歳次庚戌四月真宗大谷派(あと不明)



大谷 氏

大谷 氏

大谷 氏



大谷句佛句碑

所在地 大阪府枚方市出口二六十三 光善寺本堂右手前

宗祖
大師
六百
五十年
御
遠忌
記念

勿躰なや

笠と杖の
図 陽刻

祖師はかみこの

九十年

句佛併題

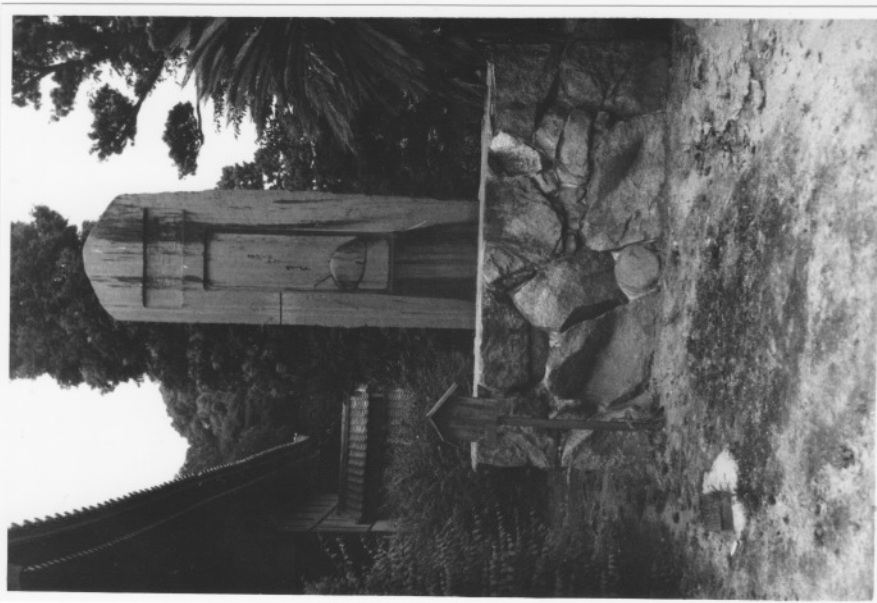
碑陰

大正三年三月五日満座

光善寺住職
深明院勝良
同 副住職
藤原 豊頭

(以下
省略)

大阪蓮信講建之



大谷句佛句碑

所在地 大阪府枚方市出口 2-8-13 光善寺本堂 右手前

記遠年五六大宗

念忌御十百師祖

(横書き この下に次の句が縦書きで書かれている)

勿体なや

祖師はかみこの

笠と杖の

九十年

図 陽刻

句佛併題

碑陰

大
正
三
年
五
月
満
座

光善寺住職

深明院勝良

同 副住職

藤原 瑩顕

大阪蓮信講 建之

(以下
省略)



大谷句佛句碑

所在地 大阪府茨木市別院町三 茨木別院境内

弘誓の松

句佛

碑陰

佛地に樹つる

大正九年十月吉日建之

黒田安吉

(僧多考)

心も松と春日かな

所在地 香川県大川郡長尾町西二全 宗林寺一畑御坊境内

勿躰なや

句佛

碑陰

祖師はかみこの

笠と杖の
陰刻図

文字なし

九十年



大谷句佛句碑

所在地 大阪府茨木市別院町3 茨木別院境内

弘誓の松

句佛

佛地に樹つる

心も松と春日かな

碑陰

大正九年十月吉日建之

黒田安吉

(他4名列記)

所在地 香川県さぬき市長尾町西1850 宗林寺一畑御坊境内

勿躰なや 句佛

祖師はかみこの

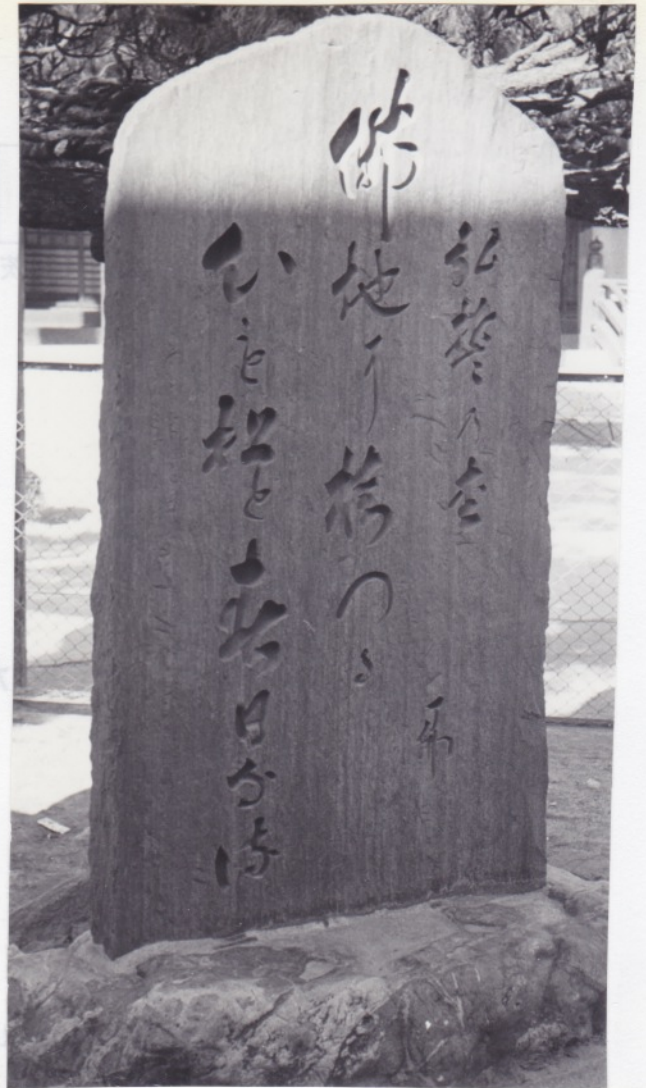
笠と杖の

九十年

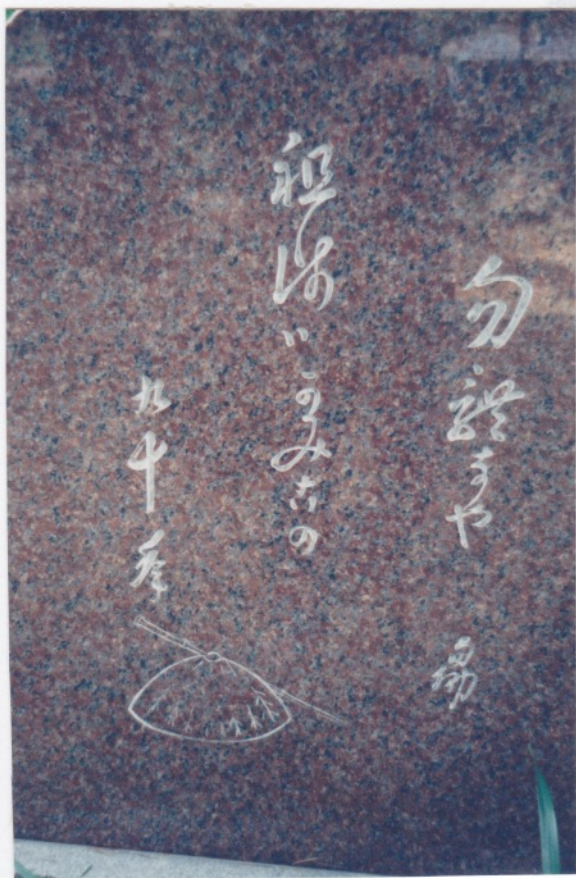
陰刻図

碑陰

文字なし



内家流時取一守林宗 058



大谷句佛句碑

所在地 福岡県浮羽郡浮羽町竹野 雲遊寺門前

潜彰房が辞任して歸國すと

名物の柿喰ひに行くか

句佛

美次まゐし

碑陰

昭和十四年十月廿九日建之

井波潜彰
千枝

所在地 福岡県浮羽郡浮羽町高見五ノ入 光福寺庭内

信心の

外に世は

句佛

なき

碑陰

昭和十六年春建設 屏峯

すゝしきよ



大谷句佛句碑

所在地 福岡県久留米市田主丸町地徳 1859 雲遊寺門前

潜彰房が辞任して帰國すと

句 佛

名物の柿喰ひに行くか

羨まし

碑陰

昭和十四年十月廿九日建之

井波潜彰

千枝

所在地 福岡県うきは市浮羽町高見 908 光福寺庭内

外に世は 句 佛

信心の なき

すゝしさよ

碑陰

昭和十六年春建設 屏峯



内親王墓 800



大野林火句碑

所在地 福島県原町市上太田 前田 岩屋寺門前

合 掌 に

僧 鳩 き

は し む

刈 上 鎌

林 火

左側面

昭和五十八年五月

はら、ご会一同建之

所在地 神奈川県横浜市中区 港の見える丘公園(三ツ山墓内)

白 き 巨 船

き た れ り

春 も

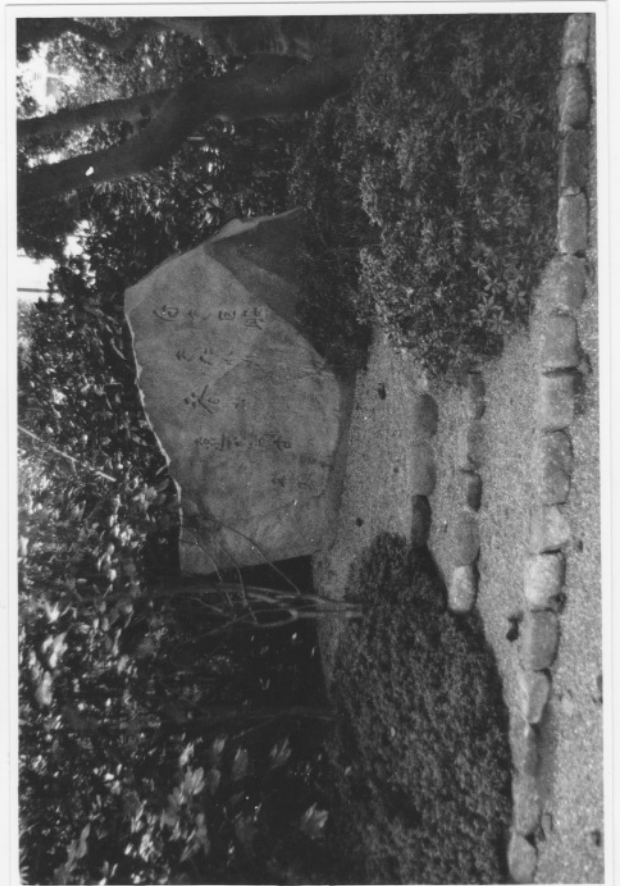
遠 か ら ず

林 火

碑 陰

昭和五十八年八月二十一日

大野林火句碑建立委員会



大野林火句碑

所在地 福島県南相馬市上太田前田 76 岩屋寺門前

合 掌 に

僧 搗 き

は じ む

刈 上 鎌

林 火

左側面

昭和五十八年五月

はらゝご会一同建之

所在地 神奈川県横浜市中区山手町 港の見える丘公園(フランス山地区)内

白 き 巨 船

き た れ り

春 も

遠 か ら ず

林 火

碑陰

昭和五十八年八月二十一日

大野林火句碑建立委員会



火林



氷川丸↓



大野林火句碑

所在地 神奈川県横浜市南区平楽二〇三 増徳院境内

彼岸鐘

草木聞けり

鳥聞けり

林火

碑陰

彼岸鐘

草木聞けり

鳥聞けり

昭和二十三年三月

春耀会 建之

所在地 神奈川県横浜市港南区笹下四十二五 成就院門前

林火

猛り鳥

松籟にいま

鎮まらぬ

二十一名列記

(戦死者のこと)

碑陰

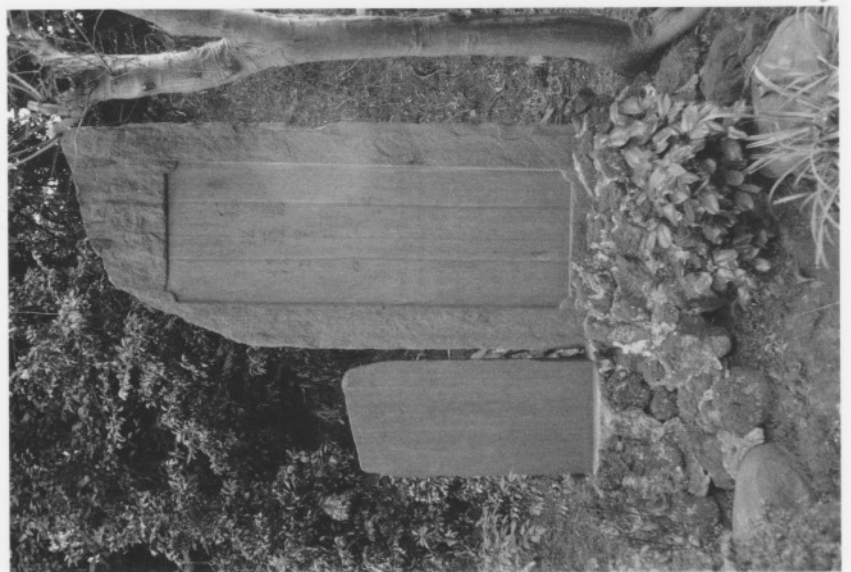
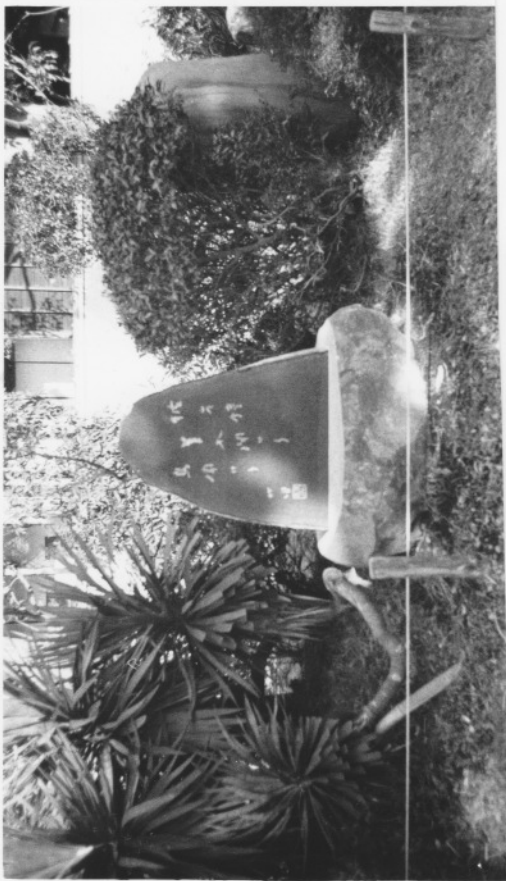
昭和二十三年三月建之 雑色有志一同

副碑

五名列記

副碑碑陰

昭和二十三年九月十一日



大野林火句碑

所在地 神奈川県横浜市南区平楽 103 増徳院境内

彼岸鐘

草木聞けり

鳥聞けり

林火

碑陰

彼岸鐘

草木聞けり

鳥聞けり

昭和六十一年八月吉日

春耀会建之

所在地 神奈川県横浜市港南区笹下 4-11-15 成就院門前

林火

猛り鴟

松籟にいま

鎮まりぬ

二十一名列記（戦死者とのこと）

碑陰

昭和二十三年三月建之 雑色有志一同

副碑

五名列記

副碑裏面

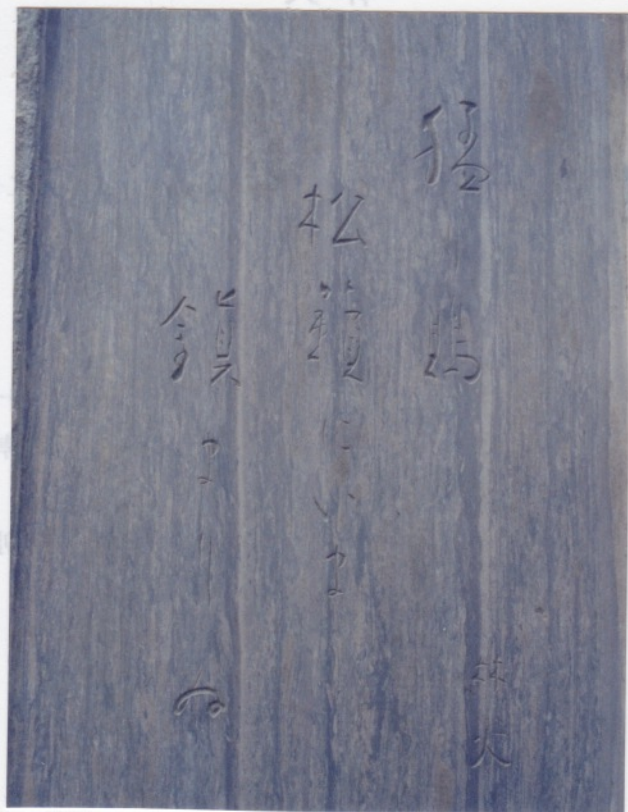
昭和三十三年九月二十一日



昭和六十年八月吉日
 春耀会 建之



碑陰
 ←



大野林火句碑

所在地 山梨県南巨摩郡南部町内船(うごぎ)丸(ま)内船寺(ないせんじ)境内

枯れふかむ

山を山人も

つく見る

林火

碑陰

昭和五十九年秋建立

大野林火句碑建設委員会

施工者

南部 塩津石材店

所在地 静岡県富士市北横割 JR富士駅 陸橋上広場

凍屋根に丑満の富士がふさりぬ

林火

富士ロータリークラブ創立二十周年記念

一九八四年一〇月建之

碑陰

文字なし



大野林火句碑

所在地 山梨県南巨摩郡南部町内船(うつぶな)3599 内船寺(ないせんじ)境内

枯れふかむ

山を山人も

つく／＼見る

林火

碑陰

昭和五十九年秋建立

大野林火句碑建設委員会

施工者

南部 塩津石材店

所在地 静岡県富士市北横割 JR富士駅 陸橋上広場

凍屋根に丑満の富士かぶさりぬ

林火

富士ロータリークラブ創立二十周年記念

一九八四年一〇月建之

碑陰

文字なし

富士市
山本山
公園
見
富士山
↓

白蓮上人
像
↓

篠井山 1394米
↓



大野林火句碑

所在地 長野県上水内郡戸隠村栃原三〇二 大昌寺境内

萱 屋 根 を

小山のごとく月の寺

林 火

碑 陰

大野林火先生は、明治三十七年横浜に生まれ、四高を経て、東京大学を卒業された。

臼田亜浪の門を出て、俳句の結社「濱」を創設して門下を育て、抒情豊かな作風をもって俳壇を風靡し、俳人協会長に就任された。

昭和五十七年八月二十一日、七十八歳をもって逝去。

信州の風物に惹かれて、戸隠の宿坊や大昌寺に足を留められ、秀れた作品を残された。昭和五十一年秋、観月句会を催したおり、

萱屋根を小山のごとく月の寺と詠まれた。

ここに当寺を来訪された因縁を記念し、墨跡を刻んで先生の高風を敬慕し、その遺徳を永く後世に伝えるため、濱門下ならびに有志によって句碑を建立した。

昭和六十一年九月

大野林火句碑建設委員会



大野林火句碑

所在地 長野県長野市戸隠栃原 3082 大昌寺境内

萱 屋 根 を

小 山 の ご と く 月 の 寺

林 火

碑陰

大野林火先生は 明治三十七年横浜に生まれ 四高を経て 東京
大学を卒業された

臼田亞浪の門を出て 俳句の結社「濱」を創設して門下を育て
抒情豊かな作風をもって俳壇を風靡し 俳人協会長に就任された

昭和五十七年八月二十一日 七十八歳をもって逝去

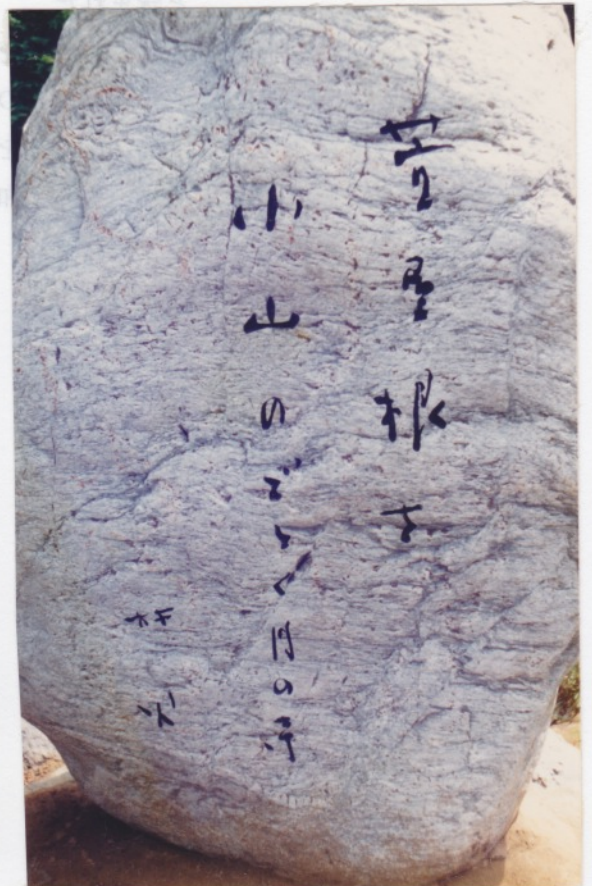
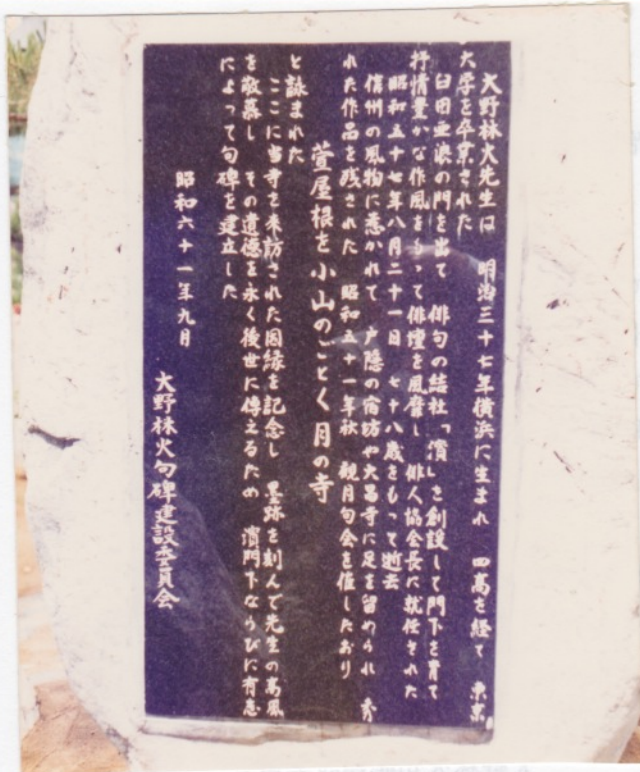
信州の風物に惹かれて 戸隠の宿坊や大昌寺に足を留められ 秀
れた作品を残された 昭和五十一年秋 観月句会を催したおり

萱 屋 根 を 小 山 の ご と く 月 の 寺
と詠まれた

ここに当寺を来訪された因縁を記念し 墨跡を刻んで先生の高風
を敬慕し その遺徳を永く後世に伝えるため 濱門下ならびに有志
によって句碑を建立した

昭和六十一年九月

大野林火句碑建設委員会



句碑

大野林火句碑

所在地 石川県珠洲市馬繰町七三三 一 「レストラン奥能登」前

霜寒しうたひておらは雇人だ

碑陰

林火

文字なし

副碑

砂取節句碑

砂取節の伝承活動二十年を記念して、同民謡を詠んだ句碑三基を建立しました。大野林火先生は昭和四十一年、沢木欣一先生、角川源義先生は同四十六年、いずれも初冬の馬繰海岸を訪ねて砂取節を聴かれ、その感動を句にされました。

昭和五十五年八月十日

建立 砂取節保存会

焚倉 玄々 碑石

略歴

大野林火 本名 正(まこと) 明治三十七年三月二十五日 横浜市日の出町に生まれる 東大経済学部商業科卒業 昭和五十七年八月二十一日歿す 享年七十八歳 法名 俳宗 院師風林火居士 墓は横浜市南区平楽一〇三増樞院墓地にある



大野林火句碑

所在地 石川県珠洲市馬縹町 17-163-1 「レストラン奥能登」前

濤寒しうたひておらは雇人だ

林火

碑陰

文字なし

副碑

砂取節句碑

砂取節の伝承活動二十年を記念して、同民謡を詠んだ句碑三基を建立しました。大野林火先生は昭和四十一年、沢木欣一先生、角川源義先生は同四十六年、いずれも初冬の馬縹海岸を訪ねて砂取節を聴かれ、その感動を句にされました。

昭和五十五年八月十日

建立 砂取節保存会

株式会社 なかや砕石

略歴

大野林火 本名 正(まさし) 明治 37 年 3 月 25 日 横浜市日の出町に生まれる
東大経済学部商業科卒業 昭和 57 年 8 月 21 日歿す 享年 78 歳 法名 俳宗院
師風林火居士 墓は横浜市南区平楽 103 増徳寺墓地にある

前「登踏奥」



式「主」

日十月八年五十五昭和

会
市

る
調

調



酒塚句碑群(大野林火句碑)

所在地 岐阜県岐阜市長良松嶺町 酒塚前

酒 塚

昭和四十六年夏

杉山慶治書

建之

碑陰

文字なし

一合の 林火
酒あまぐきく
初 蛙

右側面

井上孝二建

積みあげて

遺す蔵書や

夜長酒

不死男

尺獲虫

尺とり失せて

酒刺さす

桂 郎

碑陰

文字なし

碑陰

加藤太郎建之

時かけて

初筍のひとり酒

波 郷

昼酒を酌めば

野を越え

蝶来たる

風三樓

碑陰

先師の句を記す

昭和三年早春

所山花

碑陰

文字なし



酒塚句碑群(大野林火碑)

所在地 岐阜県岐阜市長良松籙町 酒塚前

酒 塚

昭和四十六年夏

杉山慶治書

建之

碑陰

文字なし

一 合 の 林火

酒あまくきく

初 蛙

右側面

井上孝二建

積みあげて

遺す蔵書や

夜長酒

不死男

尺獲虫

尺とり失せて

酒剩さす

桂郎

碑陰

加藤太郎建之

碑陰

文字なし

時かけて

初筈のひとり酒

波郷

碑陰

先師の句を記す

昭和五十二年早春

所山花

昼酒を酌めば

野を越え

蝶来たる

風三楼

碑陰

文字なし

大野林火句碑

所在地 岐阜県吉城郡古川町向町三丁目 千代の松原公園内

飛 驒 涼 し

北 指 して 川

流 れ を り

林 火

碑 陰

瑞々しい 詩情と 愛情
空々多涙 主宰大野林火
先生の人間性を慕い飛
驒の結社が蒲吉右衛門
村坂又平両氏の深い理
解と協力を得て茲に句
碑を建立する

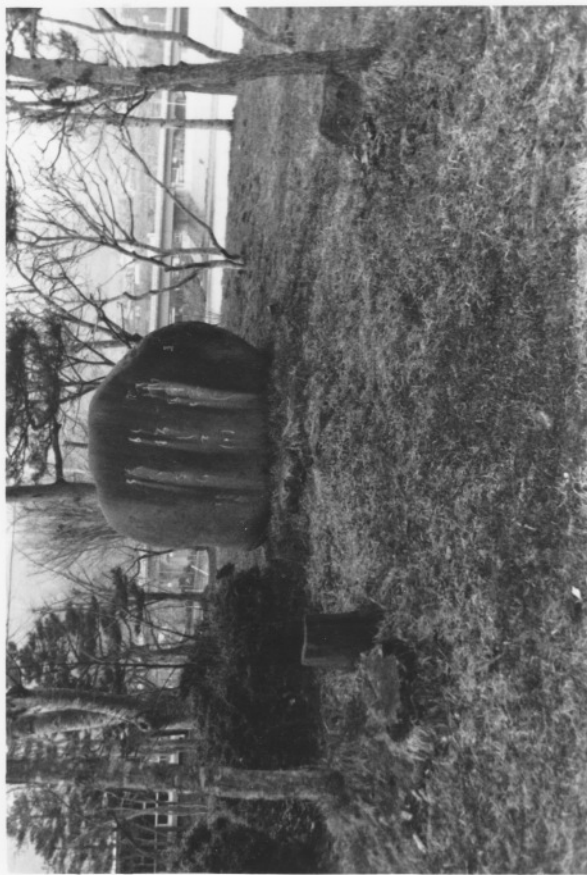
昭和三十年三月吉日

朴 の 葉 会

菅 生 会

ふもと 社

貝寄風社支部



大野林火句碑

所在地 岐阜県飛騨市古川町向町 3 丁目 千代の松原公園内

飛 騨 涼 し

北 指 し て 川

流 れ を り

林 火

碑陰

瑞々しい詩情と愛情
ゆたかな「浜」主宰大野林火
先生の人間性を慕い飛
騨の結社が蒲吉右衛門
村坂又平両氏の深い理
解と協力を得て茲に句
碑を建立する

昭和三十九年三月吉日

朴 の 葉 会
菅 生 会
ふ も と 社
貝寄風社支部



大野林火・近藤一鴻句碑

所在地 岐阜県本巣郡根尾村板所 淡墨公園内 郷土資料館前

淡墨さくら

風立てば白湧き出づる

林 火

淡 墨 櫻

山の天日五衰なし

一 鴻

碑 陰

淡墨さくら風立てば白湧き出づる

大 野 林 火

社団法人俳人協会 会長

「演」創刊主 幸 賞

神奈川 県文化 章 受 賞

勲三等 瑞宝 章 追 贈

淡墨桜山の天日五衰なし

近 藤 一 鴻

社団法人俳人協会 評議員

「演」名 誉 同 人 会 長

岐 阜 県 俳 人 協 会 会 長

「貝寄風」主 幸 賞

岐 阜 県 芸 術 文 化 顕 彰 受 賞

勲四等 瑞宝 章 受 賞

昭和六十二年四月

本 巣 ラ イ オ ン ズ ク ラ ブ

貝 寄 風 俳 句 会



大野林火・近藤一鴻句碑

所在地 岐阜県本巣市根尾町板所 淡墨公園内 郷土資料館前

淡 墨 さ く ら

風 立 て ば 白 湧 き 出 づ る

林 火

淡 墨 櫻

山 の 天 日 五 衰 な し

一 鴻

碑陰

淡墨さくら風立てば白湧き出づる

大 野 林 火

社団法人 俳人協会 会長

「濱」 創刊 主宰

神奈川県文化章 受賞

勲 三 等 瑞 宝 章 追 贈

淡墨桜やまの天日五衰なし

近 藤 一 鴻

社団法人 俳人協会 評議員

「濱」 名誉同人 会長

岐阜県俳人協会 会長

「貝寄風」 主宰

岐阜県芸術文化顕彰 受賞

勲 四 等 瑞 宝 章 受 賞

昭和六十二年四月

本巣ライオンズクラブ

貝 寄 風 俳 句 会



大隈

石碑

大隈



会 社 有 限 公 司

大野林火句碑

所在地 京都府舞鶴市西舞鶴 舞鶴公園(更紗庭) 牧野紀恩碑近く

舞鶴田辺城址

鳥雲に

歲月

思い

われあゆむ

林火

碑陰

昭和三年四月十日

海門俳句会三周年記念

代表 猿橋統流子

所在地 和歌山県伊都郡高野町高野山交 浪切不動尊横

この山の

真如の

月と

ひきがへる

林火

記念

1974

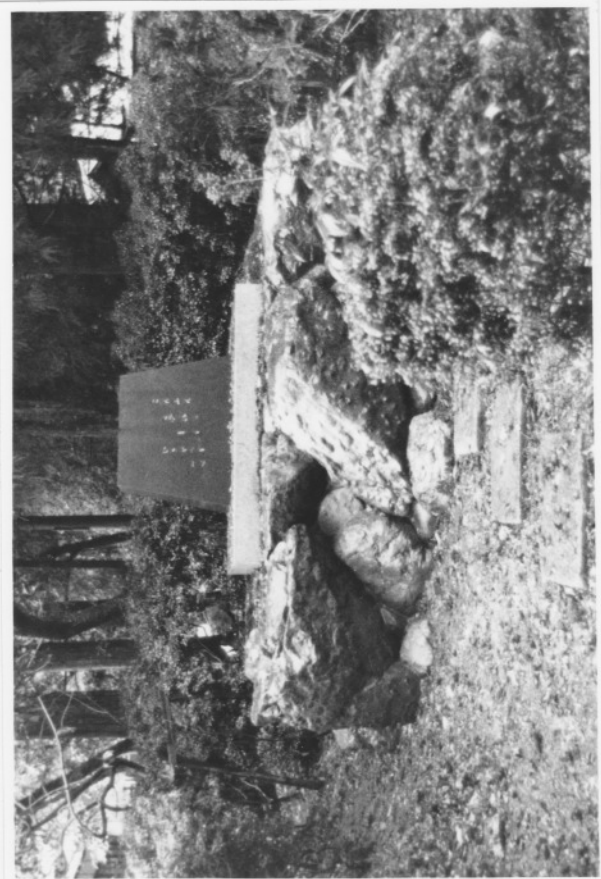
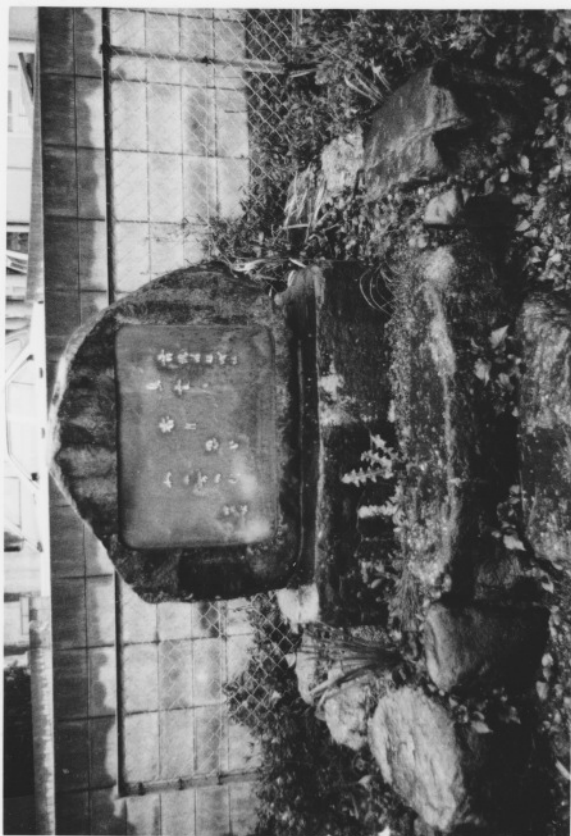
門下生

古稀先生

1974

門下生

浪切不動尊横



大野林火句碑

所在地 京都府舞鶴市西舞鶴 舞鶴公園内(田辺城址) 牧野紀恩碑近く

舞鶴田辺城址

鳥雲に

碑陰

歳月

昭和五十一年四月十日

思い

海門俳句会三十周年記念

われあゆむ

代表 猿橋統流子

林火

所在地 和歌山県伊都郡高野町高野山 660 浪切不動尊横

この山の

真如の

月と

ひきがへる

林火

碑陰(横書き)

大野林火先生古稀記念

1974. 9. 29

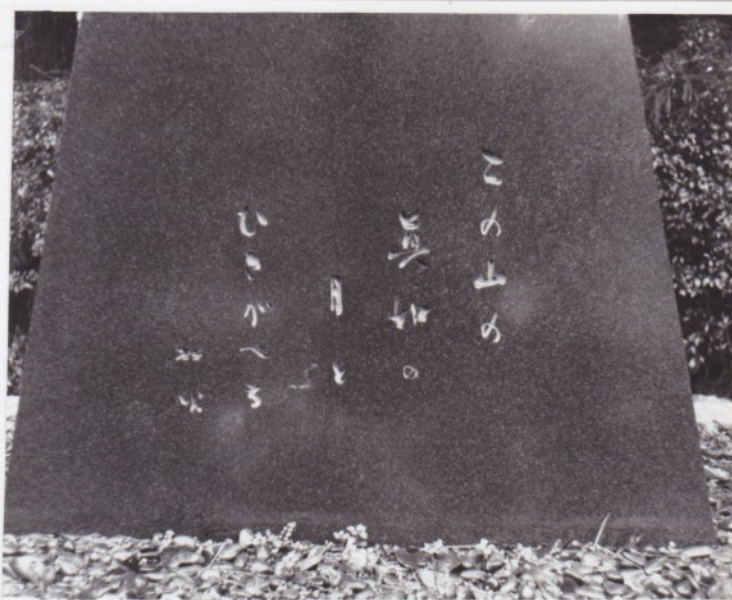
門下生



新門前伊勢會十三甲中平五



月 5



大橋桜坡子句碑

所在地 滋賀県伊香郡木之本町木之本四七 意富布良(おぼろ)神社境内

雪やがて来む峯々のすがたなり

桜坡子

碑陰

昭和三十六年十月建立 大橋桜坡子先生句碑建設委員会

所在地 大阪府大阪市住吉区住吉三九 住吉大社太鼓橋前 豊正岡神社

桜坡子

住吉に

碑陰

昭和四十五年十一月建之

大橋桜坡子先生句碑建設委員会

歌の神あり

初詣



大橋桜坡子句碑

所在地 滋賀県伊香郡木之本町木之本 487 意富布良(おほふら)神社境内

雪やがて来む峯々のすがたなり

桜坡子

碑陰

昭和三十六年十月建立 大橋桜坡子先生句碑建設委員会

所在地 大阪府大阪市住吉区住吉 2-9 住吉大社 太鼓橋手前 参道北側神苑

桜坡子

住吉に

歌の神あり

初詣

碑陰

昭和四十五年十一月建之

大橋桜坡子先生句碑建設委員会



大橋敦子句碑

所在地 兵庫県神崎郡福崎町高岡板坂一九二 応聖寺 (まごころ) 境内

沙 羅

落 花

碑 陰

文字なし

大 地 に

梵 字

こほすかな

敦子、



大橋敦子句碑

所在地 兵庫県神崎郡福崎町高岡板坂 1912 応聖寺(おうしょうじ)境内

沙 羅

落 花

大 地 に

梵 字

こ ぼ す

か な

敦 子

碑陰

文字なし



大

雨

大

花

千 尊



大橋桜坡子句碑

所在地 香川県小豆郡内海町安田甲二叁三 栄光寺山門横

すそおしくなりきし芒十二夜

桜坡子

母逝きて習ふ經文梅月夜 鶴桜子

碑陰

文字なし

副碑

碑文

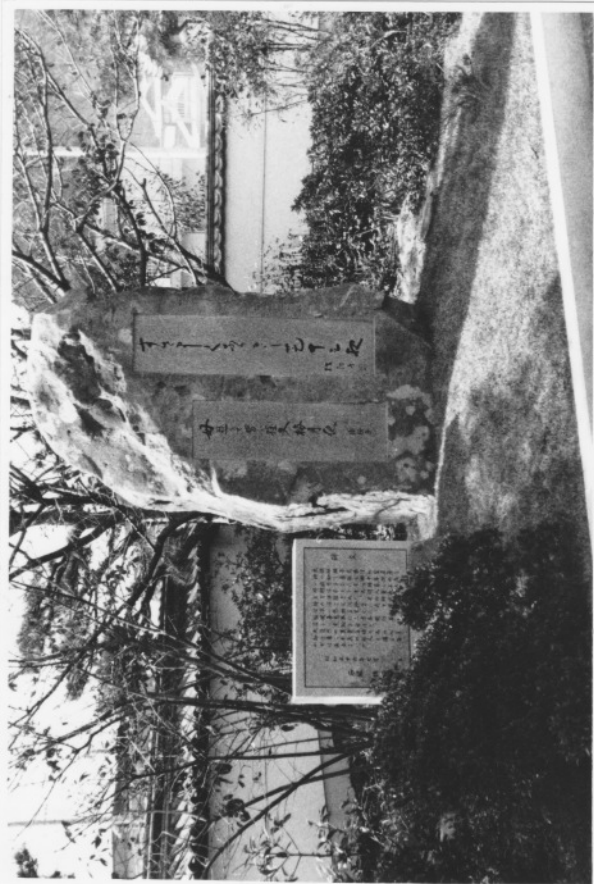
大橋桜坡子先生は俳聖虚子を神の如く尊敬し四十年間の長い歳月をひたすら師事しある時期はホトトギス同人会長として活躍された。その師弟の絆の深さと純粋さに我々門人の深い感動を覚えた。師事は大橋桜坡子先生に二十年間。師事しは厳しい薫陶を受けた。師事しは大自然の真意を悟り人の心を知る者こそ真の俳人であると謂える。ではあるまいか。

昭和五十六年七月

西堀 鶴桜子
(清)

略歴

大橋桜坡子 本名 英次
明治三十八年六月二十九日 滋賀
県伊香郡木之本村に生ま
れる。敦賀商業卒業。昭和
四十六年十月三十一日に歿す。享年
七十六歳。法名 慈照院釋
櫻坡信士。墓は大阪府吹
田市千里山西一丁目十七
千里寺墓地にある。



大橋桜坡子句碑

所在地 香川県小豆郡小豆島町安田甲 1621 栄光寺 山門横

すさましくなりきし芒十三夜

桜坡子

母逝きて習ふ經文梅月夜 鵲桜子

碑陰

文字なし

副碑

碑文

大橋桜坡子先生は俳聖虚子を
神の如く尊敬し四十年間の長
い歳月をひたすら師事しある
時期はホトトギス同人会長と
して活躍された。その師弟の
絆の深さと純粹さに我々門人
は深い感動を覚えた。私は
桜坡子先生に二十年間師事し
厳しい薫陶を受けた。

大自然の真意を悟り人の心を
知る者こそ真の俳人と謂える
のではあるまいか。

昭和五十六年七月

西堀 鵲桜子

(清)

略歴

大橋桜坡子 本名 英次 明治 28 年 6 月 29 日 滋賀県伊香郡木之本町に生まれる
敦賀商業を卒業 昭和 46 年 10 月 31 日歿す 享年 76 歳 墓は大阪府吹田市千里山
西 1-37-42 千里山墓地にある

大橋松平歌碑

所在地 千葉県船橋市西船五丁目 勝間田公園内

しげやまの尾根をはひゆく

雲みれば晴れたるかたに

移りつゝあり

松平

碑陰

大橋松平 牧水門歌人

(明治二十六年九月五日大分県日田に生れ

長崎に育ち 昭和二十七年四月二十八日

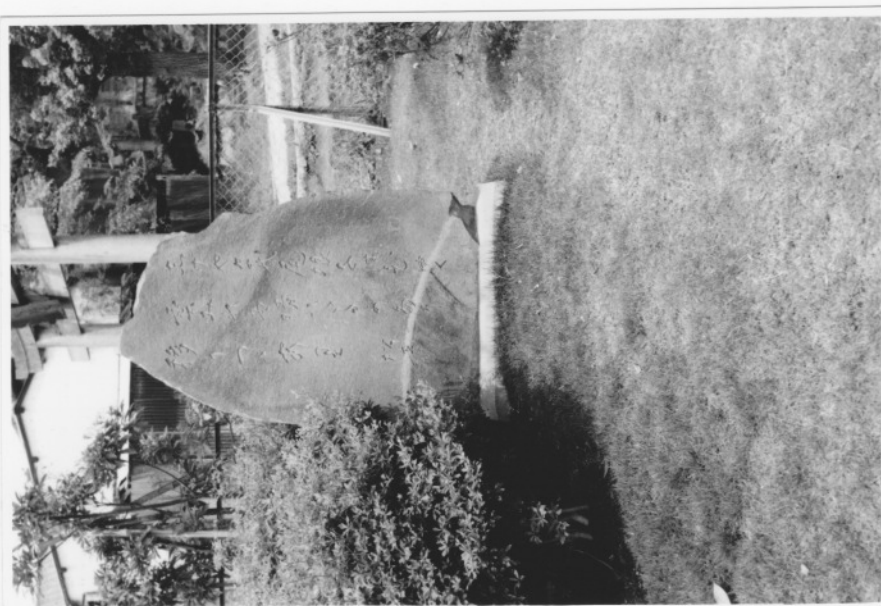
船橋に歿す

昭和三十三年四月二十六日 大橋松平歌碑建設会

略歴

大橋松平 本名 岩崎松平 明治三十六年九月五日 大分県日田町に生まれる

昭和二十七年四月二十八日歿す 享年五十八歳



大橋松平歌碑

所在地 千葉県船橋市西船5丁目 勝間田公園内

しげやまの尾根をはひゆく
雲みれば晴れたるかたに
移りつゝあり 松平

碑陰

大橋松平 牧水門歌人
明治二十六年九月五日大分県日田に生れ
長崎に育ち 昭和二十七年四月二十八日
船橋に歿す
昭和三十二年四月二十八日 大橋松平歌碑建設会

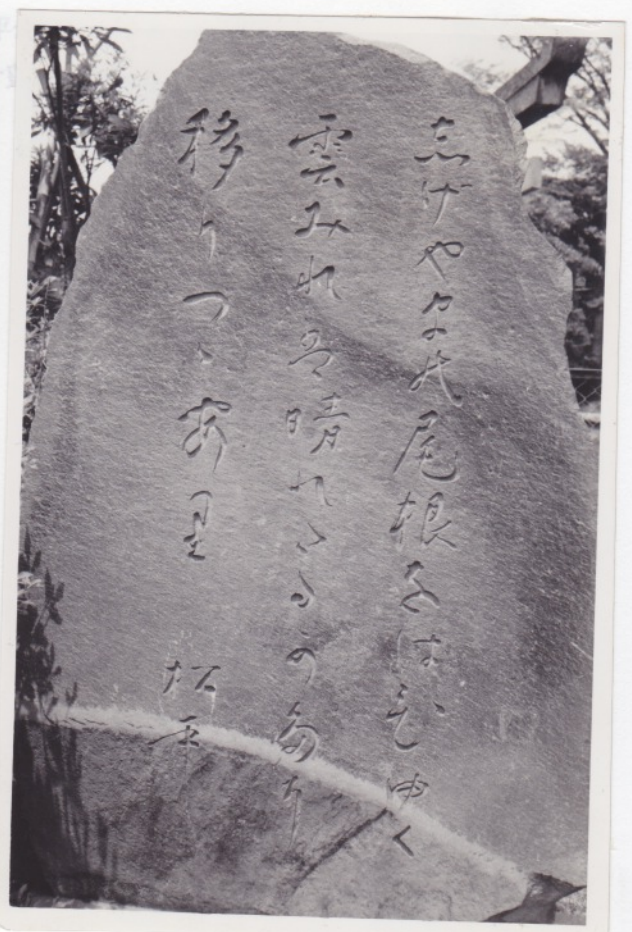
略歴

大橋松平 本名 岩崎松平 明治26年9月5日 大分県日田町に生れる
昭和27年4月28日歿す 享年58歳

大橋松平 牧水歌人
 明治二十六年九月五日大分県日田に生れ
 長崎に育ち昭和二十七年四月二十八日
 船橋に歿す
 昭和三十三年四月二十八日大橋松平歌人協会



大橋松平 門木好
 日正民武甲六十二前御
 十二前御 せ青コ御具
 十前御備
 日八十二民四甲二十三前御



大町桂月記念碑

所在地 北海道上川郡上川町 層雲峡園地

像之 生先月桂町大

7-リレの月桂

忠谷塩一徳井奈立建

文豪大町桂月は、大正十年八月、草深き
この地を訪れ、大函、小函などを探勝し、
さらに黒岳沢を経て大雪山頂を極め
桂月は大雪山とこの峡谷は全国に類ま
なれなる景観と激賞し、ここを層雲峡と命
名し、帰京するや、格調高い美文を以つ
て大雪山と層雲峡を世に紹介された。
桂月来層五十周年を記念し、この碑を建
立して、その足跡を偲ぶものである。
昭和四十六年秋
層雲峡観光協会
会長 上川町長 野田晴男

碑陰

文字なし

人若し余に北海道
の山水を問はば、
第一に大雪山を挙
ぐべし。次に層雲
峡を挙ぐべし。大
雪山は頂上広くし
てお花畑の多き点
に於て層雲峡は兩
崖の高く長く且奇
なる点に於て、

書也



大町桂月記念碑

所在地 北海道上川郡上川町 層雲峡 園地

右上(横書き)

像之生先月桂町大

フリーレ月桂

忠谷塩 一徳井^奈立建

右下(縦書き)

由 来

文豪大町桂月は、大正十年八月、草深きこの地を訪れ、大函、小函などを探勝し、さらに黒岳沢を経て 大雪山頂を極めた。

桂月は、大雪山とこの峡谷は全国に類まれなる景観と激賞し、ここを層雲峡と命名し、帰京するや、格調高い美文を以って、大雪山と層雲峡を世に紹介された。桂月来層五十周年を記念し、この碑を建立して、その足跡を偲ぶものである。

昭和四十六年秋

層雲峡観光協会

会長 上川町長 野田晴男

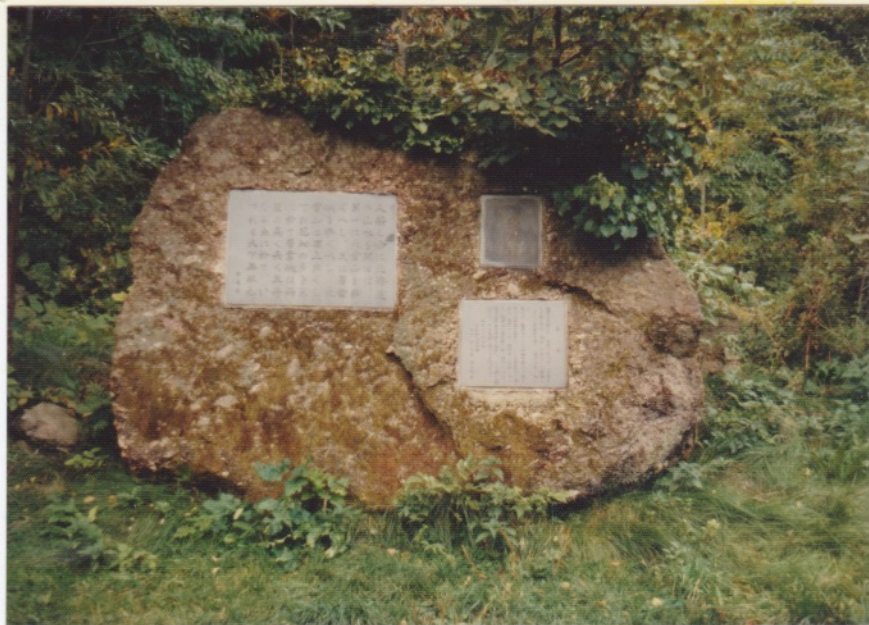
左上(縦書き)

人若し余に北海道
の山水を問はば、
第一に大雪山を挙
ぐべし。次に層雲
峡を挙ぐべし。大
雪山は頂上広くし
てお花畑の多き点
に於て層雲峡は両
崖の高く長く且奇
なる点に於て、い
づれも天下無双也

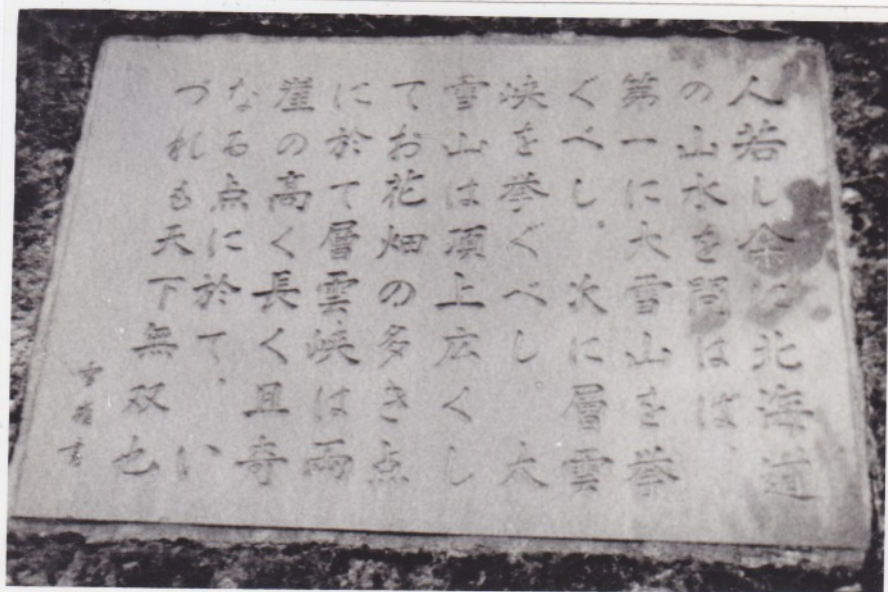
雪嶺書

碑陰

文字なし



き諸草、凡八半十五大、お且卦四太素文
「體對さちが國小、國大、其語を服のこ



田道沿いにあった頃の大所桂月の像



大町桂月句碑

所在地 北海道野付郡別海町尾岱沼潮見 野付幼稚園近くの路傍

野付湾にて

網を干す

棒や

鳥鵲の

物語り

桂月

碑陰

個人名

企業名

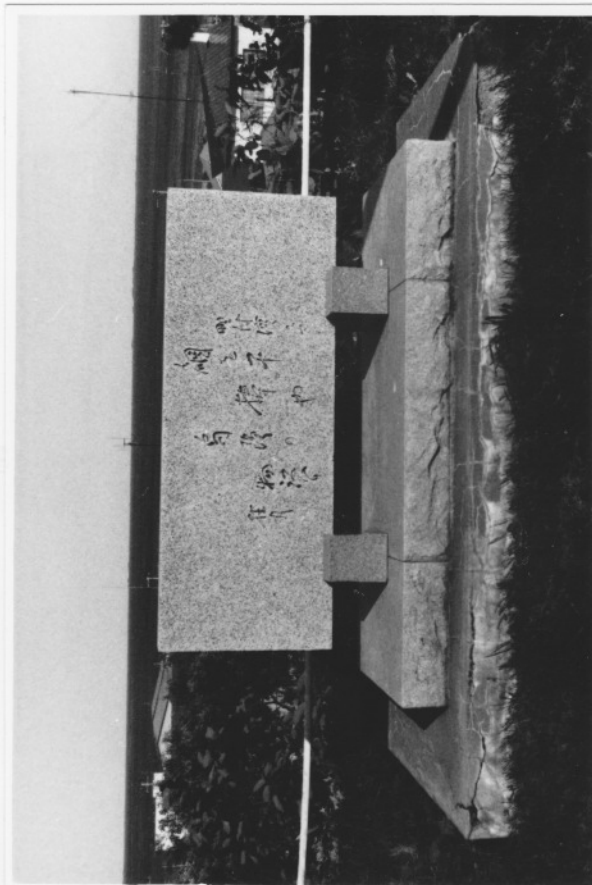
等多数

列記

(略)

略歴

大町桂月 本名 芳衡 明治三年二月二十四日 高知市北門筋(現永国寺町)に生まれる 東大国文科卒業 大正十四年六月十日歿す 享年五十六歳 法名 清文院桂月 鐵脚居士 墓は東京都豊島区雑司が谷靈園二種九号五圃と 青森県上北郡十和田湖町萬温泉地にある



大町桂月句碑

所在地 北海道野付郡別海町尾岱沼潮見町 野付幼稚園近くの路傍

野付湾にて

網 を 干 す

棒 や

鳥 鷗 の

物 語 り

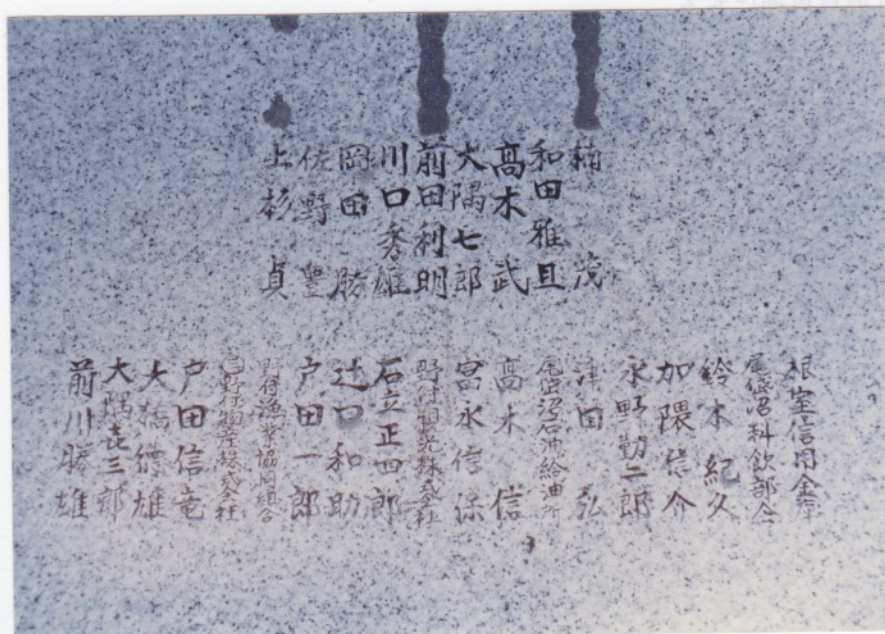
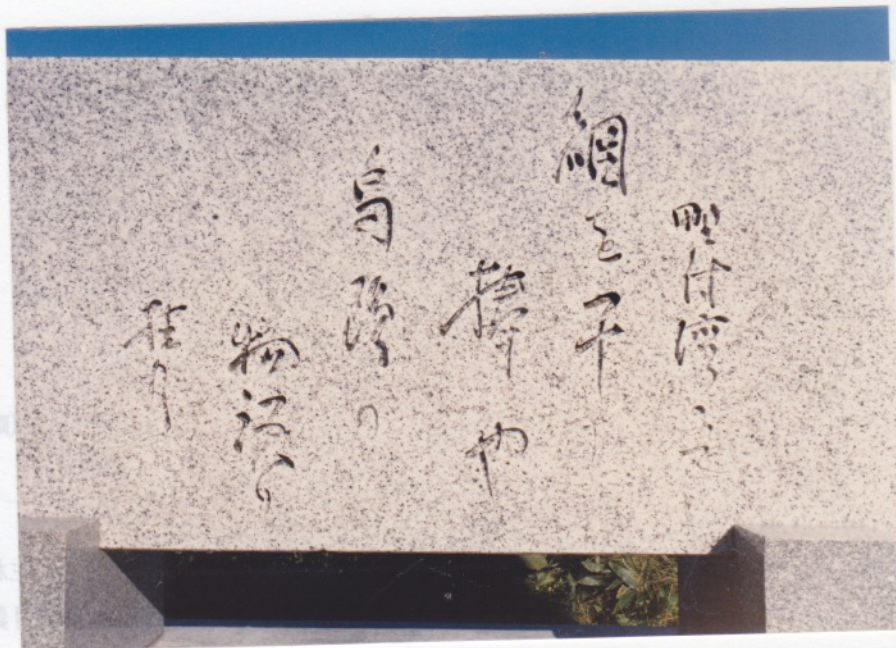
桂 月

碑陰

個人名 企業名 多数列記(略)

略歴

大町桂月 本名 芳衛 明治2年1月24日 高知市北門筋(現永国寺町)に生れる
東大国文科卒業 大正14年6月10日歿す 享年56歳 法名 清文院桂月鐵脚
居士 墓は東京都豊島区雑司が谷霊園1種9号5側と青森県上北郡十和田湖町
蔦温泉墓地にある



大町桂月歌碑

所在地 青森県黒石市 板留温泉 道路傍

大町桂月先生の作

一 腕の芋を

分かちて

君と吾

うき世の外の

月を見る

かな

碑陰

大町桂
月先生
歌碑記

桂月先生は高知の人明治二年生る帝
大國文科卒業大正十四年六月十日日本
縣葛温泉にて永眠先生天資明達流暢な
る紀行文に長じ足跡天下に遍し嘗て十
和田の景勝を探り踵を我が浅瀬石川に
轉じ板留に來遊碑面の歌を中の湯に落書す

に似たり佳境更に佳趣を
を加へ此の感愈々深し依
祈ること切なり茲に地元
と温泉村江利山義顯氏の
之を建つ
形村花巻 佐藤與三郎誌
高山松堂書



大町桂月歌碑

所在地 青森県黒石市板留 板留温泉 道路傍

大町桂月先生の作
一 碗 の 芋 を

分 か ち て

君 と 吾

う き 世 の 外 の

月 を 見 る

か な

碑陰

大 町 桂
月 先 生
歌 碑 記

桂月先生は高知の人明治二年生る帝
大國文科卒業大正十四年六月十日日本
縣蔦温泉にて永眠先生天資明達流暢な
る紀行文に長じ足跡天下に遍し嘗て十
和田の景勝を探り踵を我が浅瀬石川に
轉じ板留に来遊碑面の歌を中の湯に落書す
墨痕淋漓鶏群の一鶴に似たり佳境更に佳趣を
添ふ予今や不惑に二を加へ此の感愈々深し依
て郷土景觀の不朽を祈ること切なり茲に地元
板留の甚大なる後援と温湯村江利山義顕氏の
特異なる助力を得て之を建つ

昭和十三年八月十五日 山形村花巻 佐藤與三郎誌

高山松堂書



秋碑記



5月 碑 刻

帝る坐半二街門人の味満お坐表良縣

本日十月六日四十五才堂卒時を國大



大町桂月歌碑

所在地 青森県上北郡十和田湖町法量焼山 萬温泉 池畔

世の人の

命を

からむ

萬の山

湯のわく處

水清き

ところ

桂月

碑陰

大町桂月先生は明治四十一年に
はじめておいでになり以来この地を
深く愛慕大正十四年六月十日こゝで
病歿されました 五十年忌にあたり
遺徳を偲びこの碑を建てます

昭和四十九年十月十日

萬温泉

小笠原四郎

眞

コネ



大町桂月歌碑

所在地 青森県十和田市法量焼山 蔦温泉 池畔

世の人の

命を

からむ

蔦の山

湯のわく處

水清き

ところ

桂月

碑陰

大町桂月先生は明治四十一年にはじめておいでになり以来この地を深く愛され大正十四年六月十日こゝで病歿されました 五十年忌にあたり遺徳を偲びこの碑を建てます

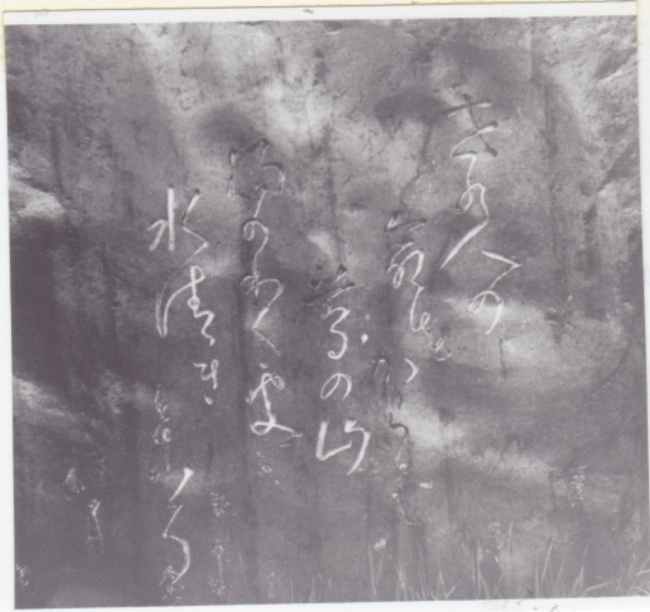
昭和四十九年六月十日

蔦温泉

小笠原四郎

眞

ヨネ





大町桂月漢詩碑

所在地 福島県郡山市熱海町 4-161 「水月園一力旅館」庭園内 地藏横

水 月 園 (横書き)

(この下に縦書きで次の漢詩が書かれている)

紅葉青山當面横一庭泉石

自幽清晚來雲氣壓檐角

三尺金鱗躍有聲

庚申晚秋水月園にて 桂月

碑陰

水 月 園 の 記

磐梯熱海に名園あり水月園と名づく旅館一力の前庭これなり広さ三千坪池泉八百坪五百川の清流を入れて水は東に流れ大池は淀んで魚群れ小池は□□って鳥浴す五葉を雲仙より移し榎柏を津軽に求め石を据うること六十余島を築き橋を架して廻遊に便す夏の月山にかかって池水に映るとき水月園の名にそむかず冬の雪園を埋めて樹石を蔽ふとき白景奇なり春はつつじ新緑に色を添へ秋はかへで緑松に彩を加ふ温泉に凝脂を洗ひ椅子に凭って眺むるによく細砂を踏んで歩するに□あり園主の先代小口小四郎遠近の園林を訪ねて想を構へ匠を仙台より招き指揮してこの庭を築き 園屋ともに成って業を創めしは大正七年なり翌々九年文豪大町桂月來泊して詩あり

紅葉青山にあたって横たはる 一庭の泉石おのづから幽清

晚來の雲氣檐角を壓し 三尺の金鱗躍って聲あり

爾來貴紳墨客の來浴跡を絶たず園主小口周三ことし開園五十年にあたるを記念して碑を建てこの詩を刻して後世に伝えんことを図る縁あり由来を碑陰に記す

昭和四十二年五月二十二日

福島□□□連盟会長 知事木村守道題額

文学博士 大森志郎撰文

教師 芦名彌夫書



三入金續園育養

貝卦

夷申卿焚木貝園二丁

創報



大町桂月歌碑

所在地 栃木県那須郡塩原町下塩原 もみじ湯(野天風呂)横

名にし負う箒川原にゆめあみして

心のちりもはらわれにけり

桂 月

碑陰

昭和五十九年秋

塩原溪谷歩道完成記念

古町商店会建立

妙雲憲宗代

所在地 栃木県那須郡塩原町下塩原 八汐橋の袂

名にし負う箒川原に

ゆめあみして心のちりも

はらはれにけり

碑陰

不明



大町桂月歌碑

所在地 栃木県那須塩原市塩原町 もみじ湯(野天風呂)横

名にし負う 箒川原にゆあみして

心のちりもはらわれにけり

桂 月

碑陰

昭和五十九年秋

塩原溪谷歩道完成記念

古町商店会建立

妙雲憲宗代

所在地 栃木県那須塩原市塩原町 八汐橋の袂

名にし負う 箒川原に

ゆあみして心のちりも

はらはれにけり

桂 月

碑陰

不明



高知市桂浜に生まれ桂月と号
した大町芳衛は酒と旅を愛し
全国に足跡と共に「簑一笠」
「行雲流水」「日本の山水」等の
名著をのこされたが特に塩原を
愛好され未遊数回に及んでいる
碑の歌は大正八年の遊詠である。
塩原町文化協会



